

平成26年度進行管理・評価シート
 小田原市歴史的風致維持向上計画(平成23年6月8日認定)
 (最終変更平成26年3月31日)

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 計画実施に向けた推進体制の強化	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 景観計画の活用	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 清閑亭保存整備活用事業	3
2 松永記念館整備活用事業	4
3 歴史的風致形成建造物等整備事業	5
4 史跡小田原城跡本丸・二の丸整備事業	6
5 八幡山古郭・総構整備事業	7
6 案内板等整備事業	8
7 小田原文学館整備活用事業	9
8 国道255号電線地中化事業	10
9 銀座・竹の花周辺地区における街なみ環境の向上	11
10 祭礼等保存継承事業	12
11 歴史的風致形成建造物等活用事業	13
12 地区まちづくりのための調査及び住民とのワークショップ	14
13 街かど博物館活用事業	15
14 なりわい交流館活用事業	16
15 伝統的工芸品産業産地組合助成事業	17
16 小田原散策マップ等作成事業	18
17 レンタサイクル事業	19
18 民族芸能保存支援事業	20
19 無形民俗文化財記録作成事業	21
20 伝統行事・伝統文化啓発事業	22
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の指定	23
2 文化財の修理(整備を含む)及び防災	24
3 文化財の保存及び活用の普及・啓発	25
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 小田原城址遺構「国史跡に」答申 ほか	26
⑥その他(様式1-6)		
1 小田原地下街再生事業における歴史的風致維持向上に関する事項(伝統工芸、水産加工業など)	27
2 観光地ビジネス創出の総合支援事業	28
3 小田原木材の活用	29
4 職人育成研修の実施(検討)	30
5 歴史的風致に関する啓発	31
6 関東圏歴史まちづくりサミットへの参加(共催)	32

□総括評価シート【方針の達成状況等】(様式2)

①計画に記載している方針(様式2-1)		
(1) 歴史的風致の核となる建造物の保存・活用の推進	33~34
(2) 歴史的風致の残るまちなみの環境整備の推進	35~36
(3) 歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援	37~38

□総括評価シート【代表的な事業の質の評価】(様式3)

①歴史的風致維持向上施設の整備・管理(様式3-1)		
(1) 史跡とその周辺の整備	39~40
(2) 回遊拠点施設の整備	41~42
②その他(任意)(様式3-2)		
(3) 歴史的風致に関する啓発	43~44

□法定協議会等におけるコメントシート(様式4) 45

評価軸①-1
組織体制

	評価対象年度	平成26年度
項目	現在の状況	

計画実施に向けた推進体制の強化

- 実施済
- 実施中
- 未着手

計画に記載している内容
計画変更や事業実施に係る懸案事項については、「小田原市歴史まちづくり協議会」において協議し、推進にあたる。
行政内部の進捗管理を行うため「小田原市歴史的風致維持向上計画推進会議」を組織し、都市整備・景観・文化財・観光等の分野が横断的かつ効果的な取り組みが行える仕組みとする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・平成26年4月より、文化部文化政策課内に、新たに「歴史的建造物担当課長」を配置し、歴史的風致形成建造物等整備事業をはじめとした歴史的建造物の保全、活用に本格着手した。
・小田原市歴史まちづくり協議会を年2回開催した。
・小田原市歴史的風致維持向上計画推進会議を年2回開催した。
各推進会議終了後には、主な支援事業である社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)に係る各事業所管による予算等調整会議を実施した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

○新たに設置した歴史的建造物担当課長の所管事務

- (1) 公有の歴史的建造物の改修・整備等に関すること
- (2) 民有の歴史的建造物の維持・保全及び活用等に関すること
- (3) 歴史的風致形成建造物の指定・活用等に関すること
- (4) 歴史的建造物の維持・保全に必要な計画の策定及び調査・研究に関すること
- (5) その他歴史的景観の保全等のための歴史的建造物の維持・保全・活用にかかる施策の推進に関すること

○小田原市歴史まちづくり協議会



第1回 協議会の様子

- 第1回(平成26年5月26日開催)
- ・平成25年度「小田原市歴史的風致維持向上計画」の実施状況について
 - ・平成26年度「小田原市歴史的風致維持向上計画」の実施予定について
 - ・その他(平成26年度歴史的風致維持向上推進等調査について、歴史的建造物の保存・活用に関連する歴まち重点区域内における施策について)
- 第2回(平成27年1月22日開催)
- ・「小田原市歴史的風致維持向上計画」の進捗について(平成26年度の進捗評価と平成23～26年度の総括評価シート)
 - ・「小田原市歴史的風致維持向上計画」の軽微な変更について
 - ・平成26年度歴史的風致維持向上推進等調査について

○小田原市歴史的風致維持向上計画推進会議



第1回 推進会議の様子

- 第1回(平成26年4月25日開催)
- ・小田原市歴史的風致維持向上計画及び推進会議について
 - ・小田原市歴史的風致維持向上計画の推進に係る事業の進捗及び予定について
 - ・小田原用水について(検討) ・啓発事業について
 - ・歴史的風致維持向上推進等調査(職人育成研修)の最終報告について

- 第2回(平成26年11月25日開催)
- ・歴史的風致維持向上計画の事業の進捗状況について
 - ・民間所有の歴史的風致形成建造物の指定について
 - ・歴史的風致維持向上計画の変更予定について
 - ・新たな事業等に関する検討について

※各推進会議終了後に、社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)に係る各事業所管による予算等調整会議を実施
※また、本推進会議を中心に、本計画における啓発事業(広報や研修など)等を実施 (P.31参照)



事業所管による調整会議の様子

評価軸②-1 重点区域における良好な景観を形成する施策		評価対象年度	平成26年度
項目		現在の状況	
景観計画の活用		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	重点区域はすべて都市計画区域内であり、今後とも都市計画制度等を積極的に活用し、重点区域として相応しい良好な市街地環境の形成を進める。 また、景観計画に示された景観形成方針と類型別・構造別の方針に配慮すべき区域内に含まれるほか、3つの拠点型重点区域を含むため、これら景観施策と積極的な連携を図ることとする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・平成18年に策定した「小田原市景観計画」に基づき、良好な景観形成のための規制誘導を行った。 ・特に、著しく良好な景観に寄与する建築物及び工作物の新築等の対象経費の一部を助成する「景観形成修景費補助金制度」の活用により、重点区域内において歴史的景観の保全となる修景を行った。 ・平成21年に施行した「小田原市屋外広告物条例」に基づき、良好な景観形成のための規制誘導を行った。(色彩規制有) 【定量的数値】 拠点型重点区域別の景観届出件数 H26 小田原城周辺地区 17件、小田原駅周辺地区 7件、国道1号・本町南町地区 16件 計 40件 ※うち景観形成修景費補助金制度によるもの 小田原城周辺地区 1件、国道1号・本町南町地区 2件 計 3件 拠点型重点区域別の許可済み屋外広告物数 H26 小田原城周辺地区 7件、小田原駅周辺地区 127件、国道1号・本町南町地区 31件 計 165件			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
○重点区域内における良好な景観形成の事例(景観形成修景費補助金制度によるもの)			
			
【小田原城周辺地区】 純和風住宅の新築 ・まち歩きコース沿いに位置するもの ・数寄屋門・四つ目垣を合わせて設置		【国道1号・本町南町地区】 菓子屋店舗新築(中央)・住宅新築(右) ・景観重要公共施設である国道1号線に位置するもの ・外装仕上や色彩、外構に工夫、ともに一定の壁面後退有 ・店舗(左)は塗替え(補助対象外)で、外壁色彩調整と広告地色反転されたもの	
○重点区域内における良好な景観形成の事例(歴史的風致維持向上推進等調査によるもの) P.30(ステップ②)参照			
			
			
瀬戸タバコ店		修復作業の様子	
		修復前	
		修復後	
【国道1号・本町南町地区】 店舗外壁の模様替え ・職人育成研修における公募型研修(小田原城北工業高等学校による「町屋の外壁の修復」)として実施 ・実施にあたっては、地元職人組合の指導のもと、高校生による実習形式で行われ、さらに一般公開(1日)されたもの ・店舗1階外壁の一部(トタン部分)を、伝統工法である「さら子下見板張り」にて修復されたもの			
※本計画の重点区域内に設定している景観計画上の拠点型重点区域(3区域)において、景観届出の対象となるものについて、対象経費の一部を補助する助成制度などを活用しながら、本市景観計画に適合するよう規制誘導を行っている。 ※本計画の重点区域内に設定している景観計画上の拠点型重点区域(3区域)において、屋外広告物条例により、広告物の地の色彩に一定の基準を設けており、新規及び継続の許可手続きの際、確認を行っている。 ※景観の重点区域以外では、景観の届出は、一定規模以上のものに限っているが、届出対象でないものについても、窓口等において、歴史的景観に寄与する意匠や色彩への誘導を行い、自主的な景観形成の取り組みを促している。			

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成26年度
項目	現在の状況	
清閑亭保存整備活用事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成23年度～平成32年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金事業(街なみ環境整備事業、街なみ環境整備事業の効果促進事業)

計画に記載している内容 登録有形文化財で、歴史的建造物である清閑亭は、建物の老朽化が著しいため、補修・修理を実施し、観光客・市民の憩いの場、旧別邸等を巡る回遊ネットワークの拠点、別邸文化を発信する施設として整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

<保存整備>

東棟について、建物の構造補強、一部の壁改修及び電気設備、空調設備工事の改修を開館しながら行った。また、周辺散策路整備に伴う事業調整・用地交渉等を行った。

<活用>

民間団体の自由な発想を活かすため、NPO法人へ活用を委託し、施設に関連したイベントやまち歩きを通年で実施した。回遊性の拡大に向け、近隣の歴史的建造物(松永記念館、小田原文学館等)との回遊性を高めるポスター、それぞれの施設を紹介する葉書の作成やスタンプラリー、情報発信及びイベントを実施し、利用者の増加が図れた。

【定量的評価】

平成23年度入館者 15,969人 事業数 52事業 参加者数 12,030人
 平成24年度入館者 20,777人 事業数 113事業 参加者数 11,062人
 平成25年度入館者 22,324人 事業数 102事業 参加者数 13,003人
 平成26年度入館者 24,190人 事業数 109事業 参加者数 12,146人

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	基本的に建物等を常時活用しながら事業を行っていくため、改修工事、構造補強等工事については、活用を継続しながら段階的に行う必要がある。

状況を示す写真や資料等

<保存整備>

○構造補強(東棟)①



○構造補強(東棟)②



○電気設備



○空調設備



<活用>

○まち歩き



○3館連携イベント

・十三夜のイベントを三夜連続で清閑亭、松永記念館、小田原文学館で開催



○講演会



○建物内ガイド



○十三夜観月会コンサート



評価軸③-2 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	平成26年度
項目		現在の状況	
松永記念館整備活用事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成23年度～平成32年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金事業(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	昭和前期に建てられた歴史的建造物である松永記念館の敷地内に所在する歴史的建造物の修理及び庭園の修景整備等を一体的に実施し、観光客・市民の憩いの場、回遊ルートの拠点とする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
松永記念館本館・収蔵庫改修等の工事を実施した。 本館については、劣化した外壁の漆喰や木部の補修・バルコニー部分の補強・スロープの設置による段差解消(バリアフリー化)・展示室内の空調設備及び展示ケースの改修を実施した。 収蔵庫については、空調設備の改修などを実施した。 【定量的評価】 来館者数 平成23年度 21,901人、平成24年度 22,388人、平成25年度 22,905人、平成26年度 22,086人			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
<p><本館></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>○外壁</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>○バルコニー部分の補強</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>○スロープの設置</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>○展示室内の空調設備</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>○展示ケースの改修</p>  </div> </div>			
<p><収蔵庫></p> <p>○空調設備</p> 		<p><活用></p> <p>○茶会など 平成26年11月3日 松永記念館茶会 420席</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成26年度
項目	現在の状況	
歴史的風致形成建造物等整備事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成25年度～平成32年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金事業(街なみ環境整備事業の基幹事業)

計画に記載している内容 重点区域内にある歴史的建造物を対象に、歴史的風致形成建造物に指定し、建造物の修理・修景に対する助成を行うとともに、定期的に一般に公開する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

計画に位置付けた15件の民間所有の歴史的風致形成建造物指定候補の歴史的風致形成建造物への指定に向けて、順次、個々の物件の整備内容、及びこれを踏まえた活用等に関する所有者の意向調査・確認等を行うとともに、次年度以降において改修・整備を進めるため小田原市歴史的風致形成建造物補助金交付要綱を制定した。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

○民間所有の歴史的風致形成建造物指定候補一覧

济生堂薬局 小西本店店舗		<ul style="list-style-type: none"> ●登録有形文化財 ◆街かど博物館 	江嶋		<ul style="list-style-type: none"> ◆街かど博物館 ○銀座・竹の花街づくり地区内
だるま料理店 主屋		<ul style="list-style-type: none"> ●登録有形文化財 ○建造物見学会 ○銀座・竹の花街づくり地区内 	欄干橋ちんりう		<ul style="list-style-type: none"> ◆街かど博物館
山月 (旧共寿亭)		<ul style="list-style-type: none"> ●登録有形文化財 ★小田原ゆかりの優れた建造物 	広瀬畳店		
籠清			下田豆腐店		<ul style="list-style-type: none"> ◆街かど博物館
籠常		<ul style="list-style-type: none"> ◆街かど博物館 	内野家住宅		<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民等によるイベント開催 ○H24 歴史的調査による活用実証
丸う田代		<ul style="list-style-type: none"> ◆街かど博物館 	津田家蔵		
旧鈴廣本町店			古稀庵		<ul style="list-style-type: none"> ○建造物見学会 ○毎週日曜有料で公開中
			松永記念館 (無住庵)		<ul style="list-style-type: none"> ※<u>無住庵</u>については、松永記念館敷地内への移築の目途がたった段階で指定を行う

評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成26年度 現在の状況
史跡小田原城跡本丸・二の丸整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成23年度～平成32年度

支援事業名 国宝重要文化財等保存整備費補助金

計画に記載している内容 「史跡小田原城跡本丸・二の丸整備基本構想」に基づき小田原城本丸・二の丸の史跡整備や回遊ルート整備を進め、市街地の歴史的環境の改善や本市固有の歴史的な景観の保全をする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成22年度に整備実施設計を策定した御用米曲輪について、平成24年度に引き続き、戦国時代の遺跡の広がり確認を主な目的として発掘調査を進めており、全国的にも例の無い構造を持つ「池」や「庭園」等を発見した。平成26年度は、さらに詳細に発掘調査を進め、1号池の様子等が明らかになった。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



発見された池の全景



発見された切石敷きの井戸



発見された礎石建物跡



発見された1号池(下層)

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成26年度
項目	現在の状況	

八幡山古郭・総構整備事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
--------------	---

事業期間 平成24年度～平成32年度

支援事業名 国宝重要文化財等保存整備費補助金

計画に記載している内容 小田原のまち割りを規定している戦国時代の文化遺産である史跡小田原城跡の八幡山古郭及び総構の整備や、史跡小田原城跡を説明するためのガイダンス施設の整備を順次行っていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成22年度に策定した「史跡小田原城跡八幡山古郭・総構保存管理計画」に基づき、全体の整備計画を策定していく必要があるが、その策定には至っていない。平成26年度は、神奈川県教育委員会が県立小田原高等学校に整備した、散策路等の管理を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後、全体の整備計画策定を早急に行う必要がある。
--	--------------------------

状況を示す写真や資料等



管理している散策路



管理している散策路(ポケットパーク)

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成26年度
項目		現在の状況	
案内板等整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成23年度～平成29年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金事業(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容 歴史的建造物等について、案内板や情報板の新設、更新を実施する。市民や来訪者が建造物等への理解を深めることができるとともに、歴史的風致の拠点を巡る回遊性の高いネットワークが形成される。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成26年度 邸園めぐり案内板の設置は無し。
道標は、3基の修繕を実施した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

設置場所(民地)によっては、設置の承諾を受けるのが難しい場所がある。

状況を示す写真や資料等

○仕様と設置場所(写真)



歴史と文化の香る散策コース・城山公園付近



太閤一夜城と長興山史跡巡りコース・紹太寺入口付近



太閤一夜城と長興山史跡巡りコース・紹太寺入口付近

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成26年度 現在の状況
小田原文学館整備活用事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成25年度～平成28年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金事業(街なみ環境整備事業、街なみ環境整備事業の効果促進事業)

計画に記載している内容 登録有形文化財である小田原文学館(本館・別館)は、屋根の改修を実施するとともに、周辺の歩行者空間の整備等と併せて、施設内に新たな便益施設を整備し、まちなかを回遊する際の休憩施設としての機能を付加する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

小田原文学館本館及び別館の改修計画作成し、それに伴う改修工事を実施するための、建物構造調査を行った。小田原文学館で紹介している出身・ゆかりの文学者や作品を紹介する西海子サロンを開催した。(平成26年11月1日開催)

【定量的評価】

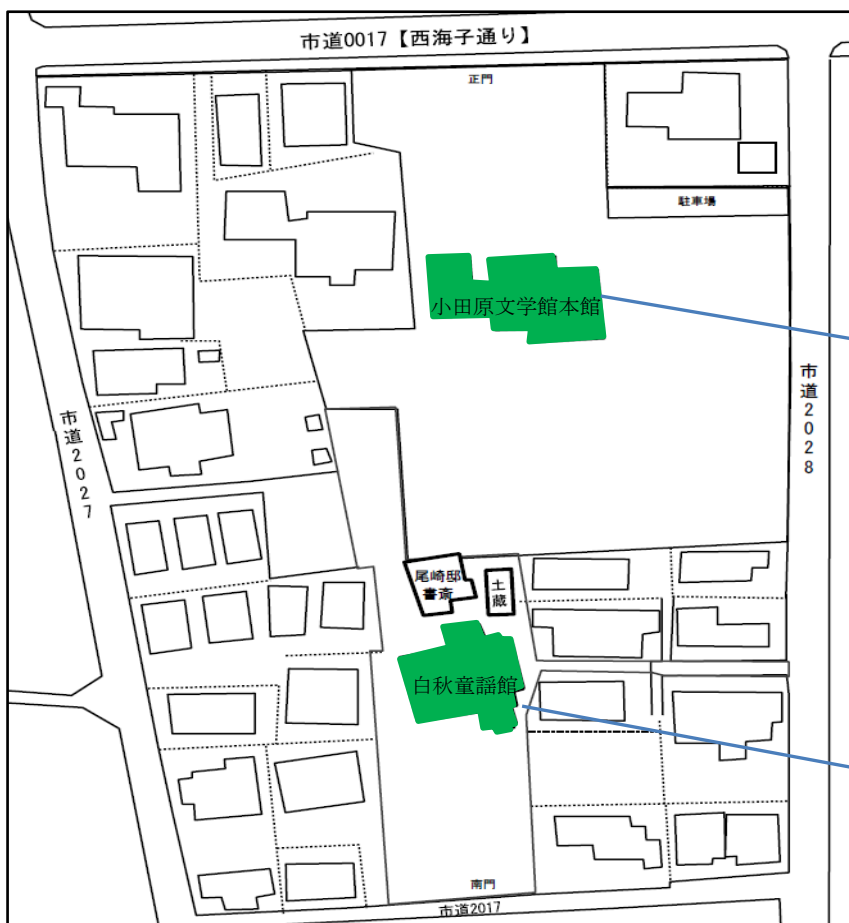
小田原文学館 来館者数

平成23年度:9,121人、平成24年度:9,578人、平成25年度:8,068人、平成26年度:8,501人

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

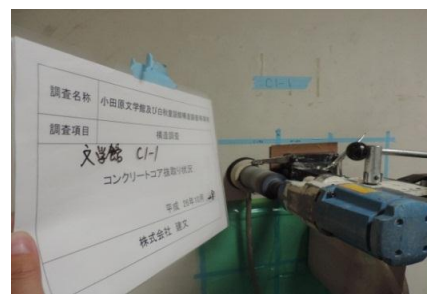
計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



建物構造調査・

【コンクリート強度調査】



【構造調査】



○第7回西海子サロン 平成26年11月1日開催

評価軸③-8
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度 平成26年度

項目	現在の状況
----	-------

国道255号電線地中化事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
---------------	---

事業期間 平成22年度～平成28年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金事業(道路事業(基幹事業))

計画に記載している内容 国道255号電線類地中化全体計画のうち、旧甲州道に位置する銀座・竹の花周辺地区において、電線類地中化を行い、歴史文化やなりわいの感じられるまちなみ景観の形成を促進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

アーケードが撤去され、道路空間に広がりが増え、見通しがよくなったため、沿道の建物の修景に対する気運が高まった。

- 平成23～24年度 アーケード撤去工事を実施
- 平成23～24年度 水道管・ガス管移設工事を実施
- 平成24年度 栄町一丁目交差点～銀座通り交差点間(両側) 各戸引込管工事を実施
- 平成24年度 銀座通り交差点～竹の花交差点付近間(東側) 電線共同溝工事を実施
- 平成25年度 銀座通り交差点～竹の花交差点付近間(両側) 各戸引込管工事を実施
- 平成25年度 栄町一丁目交差点～銀座通り交差点付近間(南側) 照明灯工事を実施
- 平成26年度 銀座通り交差点～竹の花交差点付近間(西側) 照明灯工事を実施


進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)


計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

照明灯工事とともに、街路樹の設置位置や、歩道のデザイン等、地元調整を充分行い、要望に沿った、景観上望ましいものに誘導していく必要があるため、平成29年度まで事業期間を延長する必要がある。


状況を示す写真や資料等

設置した各デザイン照明灯





※アーケードが撤去され、歩道が明るくなるとともに、建物のファサード修景も進む。デザイン照明灯の設置も進む。



評価軸③-9 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	平成26年度
項目		現在の状況	
銀座・竹の花周辺地区における街なみ環境の向上		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成23年度～平成32年度		
支援事業名	社会資本整備総合交付金事業(街なみ環境整備事業)		
計画に記載している内容	旧甲州道沿いに位置する銀座・竹の花周辺地区において、地区街づくり基準に基づく景観修景への助成、歩道修景、案内板の設置等を行い、歴史文化やなりわいの感じられるまちなみ景観の形成を促進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
修景事業により、調和のとれた良好な街なみ景観の形成が進んでいる。 ・平成26年度:2件の店舗等の修景(外装等の改修)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	修景事業について、予定通りの進捗が図れるよう、市と業者が常に情報を共有し、円滑に実施出来るよう誘導していく。		
状況を示す写真や資料等			
		太田ビル(外装等の改修)	
		青色申告会(外装等の改修)	

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成26年度 現在の状況
祭礼等保存継承事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成25年度～平成27年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 祭礼等の伝統文化の継承に必要な道具の更新を行い、歴史的風致を形成している活動の継続を図るとともに、それらの活動のPR等をする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・無形民俗文化財となっている民俗芸能団体が出演する地域の祭礼や学校の農業体験学習の出演している田植歌保存団体の活動などをPRすることで、市民等に対し地域の民俗芸能の大切さについて啓発を図ることができた。
 ・小田原ちょうちん夏まつりを実施し、市内の自治会神輿によるパレードを実施した。
 ・小田原ちょうちん夏まつりに合わせて、小田原城をデジタル掛け軸の技法で映し出す「あかりの響宴」を実施し、小田原の文化遺産をPRした。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



「根府川寺山神社の鹿島踊り」
(平成26年7月20日)



「栢山田植歌」
(平成26年6月11日)
※報徳小水稻栽培体験学習に出演



「小田原ちょうちん夏まつり」
(平成26年7月26・27日)
※自治会みこしパレードは、7月26日に実施



「あかりの響宴」
(平成26年7月26・27日)

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成26年度
項目	現在の状況	
歴史的風致形成建造物等活用事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成23年度～平成32年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 歴史的風致形成建造物に指定された建造物等を定期的に一般公開するため、事業運営する支援法人等に支援し、建造物の回遊、交流拠点としての機能を高める。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で
 ・登録有形文化財や小田原ゆかりの優れた建造物などについて、所有者の協力をいただき、春と秋の年2回公開した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



文化財建造物春の見学会(静山荘)
(平成26年5月22日～23日)



文化財建造物秋の観覧会(老樺荘・葉雨庵)
(平成26年11月23日)



岩瀬家住宅主屋(岩瀬邸)



岩瀬邸内部



静山荘



旧古稀庵庭園の門

公開場所

- 岩瀬家住宅主屋(岩瀬邸)【小田原市鴨宮692】
 【登録有形文化財(旧1.1.8) 小田原ゆかりの優れた建造物(市.6.19)】
 ・建築年代 安政4～5(1857～1858)年【昭和40年頃、平成19年改修】
 ・建築面積 190㎡ ・構造 木造平屋建(茅葺)
 江戸末期に名主を務めた家で、三越社長の実業家岩瀬栄一郎の生家。幾重にも重なる茅葺、出桁造(だしげたづくり)で深い軒をつくっている。当地方における上層農家の一例。
- 静山荘【小田原市興野3-1-20】
 【小田原ゆかりの優れた建造物(市.6.19)】
 ・建築年代 明治20(1887)年頃【昭和14年移築】
 ・建築面積 333.79㎡ ・構造 木造平屋建(寄棟造瓦葺)
 上府中村(現在の千代村近)に建築された農家を、長年、財界で活躍した望月軍四郎が現在地に移築した別荘。日本農家を別荘にした珍しい建物で、書院造りの趣致と民家風の広間が調和している。
- 旧古稀庵庭園【小田原市板橋827】
 【あいおいニッセイ同和損保小田原研究所内】
 古稀庵は明治時代の元勳山縣有朋が明治40(1907)年に構えた別荘。現在も、相模崎や箱根山を背景に築造された庭園が残されており、有朋が作庭した日白樟山荘、京都無鄰菴とともに近代日本庭園の傑作といわれている。

公開日時

平成24年11月11日(日)
10時～15時

※ 各建造物には駐車場はありません。車での来場はご遠慮下さい。お問い合わせは…
 ※ 当日は、板橋の松永記念館を中心に「夢見道山」いばし見聞集も開催されています。さらにもぜひお出かけください。 小田原市文化財文化財課まで
 電話 (0465) 33-1717

開催チラシ

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成26年度 現在の状況
地区まちづくりのための調査及び住民とのワークショップ		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間	平成23年度～平成28年度
支援事業名	市単独事業

計画に記載している内容
歴史的風致が色濃く残る板橋地区やかまぼこ通り地区において、歴史的環境にあった街なみ形成や景観に配慮したまちづくりの推進に向け、景観調査、住民とのワークショップによるルールづくり、協議会への組織化等の支援を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・板橋地区では、明治36年に建築され、土蔵造り風の町屋で和洋折衷の特徴ある意匠の元醤油製造業である内野邸(歴史的風致形成建造物指定候補)の有料公開や各種イベントの開催等、市や地域住民組織による活用等が行われている。
 ・かまぼこ通り地区では、平成26年度より、地場産業活性化のため開催された祭りを主催するため、地元かまぼこ組合傘下の団体を中心に「かまぼこ通り活性化委員会」が組織され、この委員会より景観整備に関する事項などが提言され、市と積極的な意見交換を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	両地区ともに、地元の意向を確認するとともに景観施策の充実を図るために、景観計画重点区域の拡大だけでなく、「小田原市街づくりルール形成促進条例」に基づく街づくり基準の策定や地区計画など、様々なまちづくりの手法の検討を進めていく。

状況を示す写真や資料等

○板橋地区



一般公開やイベント等が行われている内野邸
(歴史的風致形成建造物指定候補)

○かまぼこ通り地区

・かまぼこ通り活性化委員会

・第一回 小田原かまぼこ通り～千度小路なりわい祭り～
『かまぼこワッショイ』
主催：かまぼこ通り活性化委員会、後援：小田原市



平成26年9月2日(火)会議開催
 平成26年10月3日(金)会議開催
 平成26年11月11日(火)会議開催
 平成27年1月8日(木)会議開催

※すべて、小田原蒲鉾会館2F会議室にて開催
 ※小田原市、オブザーバーとして参加



開催チラシ
H26.8.9(土)開催



神輿渡御の様子



かまぼこ通りと小田原提灯

評価軸③-13 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	平成26年度
項目		現在の状況	
街かど博物館活用事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成23年度～平成32年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	小田原に古くから栄えた地場産業を営む店舗等を一般公開する「街かど博物館」において、訪れる人々に街の歴史や魅力を知ってもらう体験プログラムなど運営を支援することにより、伝統文化の伝承への意識が高まる。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
・「だるま料理店(本町2-1-30)」が「のれんと味の博物館」として新規認定 計19館 ・街かど博物館体験ツアー 平成26年度 5回開催 (参加人数 第1回:13人、第2回:18人、第3回:7人、第4回:13人、第5回:18人) ・街かど博物館館長連絡協議会 平成26年度 2回開催 ・街かど博物館ファンクラブ会員数 (H23:331人、H24:386人、H25:419人、H26:434人)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
○街かど博物館体験ツアー 第1回 平成26年 4月 6日(火) 第2回 平成26年 5月15日(土) 第3回 平成26年10月22日(水) 第4回 平成26年11月14日(金) 第5回 平成26年12月 3日(水)			だるま料理店「のれんと味の博物館」認定式 街かど博物館体験ツアー
			研ぎ出し体験 街かど博物館体験ツアー
○街かど博物館館長連絡協議会 (場所:小田原宿なりわい交流館にて) 第1回(通算第45回) 平成26年5月7日(水)開催 ・平成25年度収支決算について ・平成26年度収支予算、事業計画について ・その他 第2回(通算第46回) 平成26年9月17日(水)開催 ・街かど博物館体験ツアー(後期実施分)について ・パズルラリーについて ・ガイドマップの作成について			

評価軸③-14

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成26年度 現在の状況
なりわい交流館活用事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成23年度～平成32年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 なりわい交流館において、小田原の地場産業の情報発信や生涯学習等の各種イベントの会場として、市民や観光客が交流する場を提供することにより、本市の歴史と伝統への認識が高まる。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

開館より13年が経つが、利用者数は安定した数値で推移しており、旧東海道小田原宿の拠点施設として、市民・観光客の中で定着した施設となっている。

市民・観光客の中心市街地回遊のお休み処として年間来館者数:平成26年度 30,626人(364日開館)

地場産業の情報発信の場として伝統工芸品展の開催:年間2回(平成26年度 来場者数:夏297人、秋27人 計324人)

生涯学習等の各種イベント会場としての機能として利用団体数:平成26年度 118団体

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



施設外観

【小田原宿なりわい交流館機能】

観光案内や休憩のために立ち寄っていただくことにより、建物自体の持つ古い旅籠の雰囲気や、展示物の生業(なりわい)に関する資料に触れて頂くことにより、歴史と伝統への認識を高めている。

<2階>
イベント
スペース



<1階>
観光案内
お休み処



イベントスペースでは一般団体の展示等も行われている
※写真右は木工業の若手による展示



【小田原の伝統工芸品展】

市内外の方に伝統工芸品の魅力を体感する機会を設けること、地場産業関係者には興味を持つ客層のリサーチの場として業界の振興を図ることを目的に伝統工芸品展を開催している。

<夏>

平成26年7月18日(金)～20日(日)

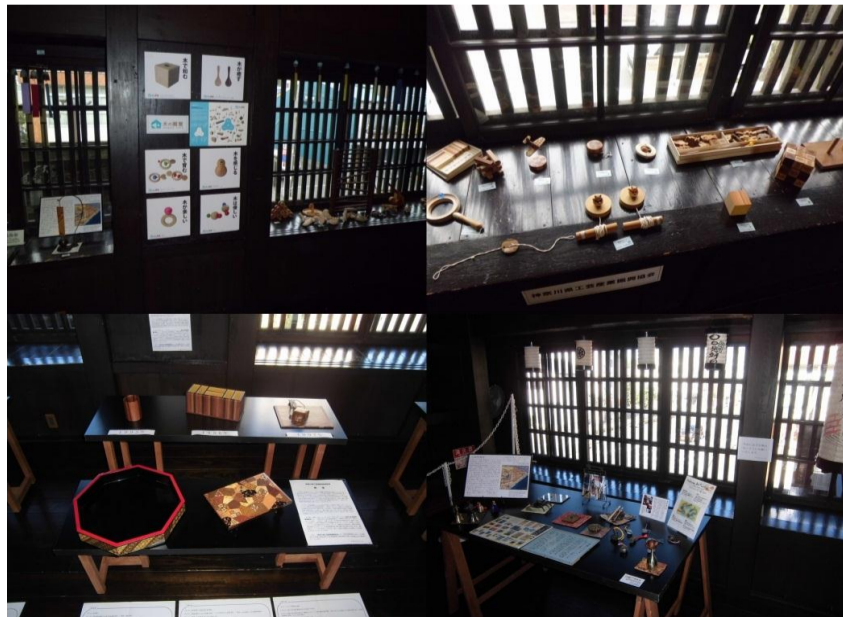
木製品のグループである木の国屋および神奈川県工芸産業振興協会の「木のおもちゃ」をメインに、小田原鋳物、小田原提灯などの工芸品を展示。

体験では、からくりパズルの製作体験を実施

<秋>

平成26年11月14日(金)～16日(日)

過去の寄木細工を年代ごとに展示したほか、工芸鋳物、小田原提灯を展示。



評価軸③-15

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成26年度
項目	現在の状況	
伝統的工芸品産業産地組合助成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成23年度～平成32年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 中世より続く小田原漆器などの伝統的工芸品を担う産地団体が行う振興事業へ助成し、担い手の育成や伝統技術の継承を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

伝統小田原漆器協同組合、小田原箱根伝統寄木協同組合が行う「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づいた振興事業に対し、助成を行った。助成の対象事業には、従事者・後継者育成事業、販路開拓事業があり、担い手の育成や伝統技術の継承に寄与した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

組合による従事者・後継者育成事業



組合による販路開拓事業



評価軸③-16

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成26年度 現在の状況
小田原散策マップ等作成事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成23年度～平成32年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容
歴史的な街なみ・施設等の案内、史実等のストーリー・回遊ルート等の紹介のための散策マップを作成し、点在する歴史的資源等の回遊を促進することで、市民や来街者が歴史的風致に触れる機会が増え、関心が高まる。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

おだわら散策マップ(西部版)を増刷した。
(A3判、両面印刷、4色カラー、2つ折りを巻き3つ折り、20,000部)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	毎年、ウォーキングコースに設置した道標や案内板などの設置状況を調査した上で、散策マップの作成に当たっている。

状況を示す写真や資料等

○おだわら散策マップ(西部版)



表紙



A3 表



A3 裏

○おだわら散策マップ全体のエリア



西部版

中央版

東部版

評価軸③-17

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成26年度
項目		現在の状況	
レンタサイクル事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成23年度～平成32年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 レンタサイクルの拠点を増やすことにより、旧城下やその周辺に点在する歴史的資源をより容易に巡ることが可能になり、市民や来街者が歴史的風致に触れる機会が増え、関心が高まる。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

例年と同水準の利用をいただき、順調に事業を実施できた。

平成23年度貸出実績:1,693台

平成24年度貸出実績:1,786台

平成25年度貸出実績:1,768台

平成26年度貸出実績:2,091台

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

利用の頻度の高いシーズンとそうでないシーズンがはっきりしている。また、天候の影響も大きい。

状況を示す写真や資料等

自転車台数:20台
 利用料金:1回300円



レンタサイクル

パンフレット

評価軸③-18
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成26年度 現在の状況
民俗芸能保存支援事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間	平成23年度～平成32年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	歴史的風致を構成する民俗芸能は、中心市街地の若年層の減少により、次世代の担い手不足が懸念されているため、保存活動団体に対し、普及啓発や保存の取り組みを支援する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

・小田原民俗芸能保存協会は、市内に残る民俗芸能団体により構成され、民俗芸能の保護・育成に努め、例年、秋には協会構成団体が一堂に会し、日頃の練習成果を発表する後継者育成発表会を開催している。
 H23: 7団体(432人)、H24: 7団体(396人)、H25: 10団体(525人)、H26: 8団体(529人)
 ・平成26年度は平成26年11月3日(月・祝)に小田原市民会館で開催した。これまで大人の後継者のみで披露していた「栢山田植歌」では、地元2校の小学校児童31名との合唱を実現し、これまでにない盛況を得た。
 ・団体間のより一層の相互交流の場とするとともに、市民や次世代を担う子どもたちにも民俗芸能の普及を図ることができた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

開会式

山王原大漁木遣唄

小田原祭囃子連絡協議会

根府川鹿島踊保存会

曾我別所寿獅子舞保存会

小田原囃子多古保存会

栢山田植歌保存会

小田原ちょうちん踊り保存会

相模人形芝居下中座

閉会式



広報おだわら「おだわらいふ」10月15日号表紙へ掲載

評価軸③-20

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	平成26年度 現在の状況
伝統行事・伝統文化啓発事業			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	平成26年度～平成32年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	伝統文化に関わる普及啓発のためのイベントの開催やパンフレットなどの製作を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
小田原市民文化祭における伝統文化発表会等の開催(吟剣詩舞道大会、いけばな諸流展など) 伝統文化のワークショップの開催(日舞 16人、長唄 17人) 小学校での伝統文化のアウトリーチ事業(長唄・三味線 3校)			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
○長唄ワークショップ		○長唄・三味線アウトリーチ	
			
○日舞ワークショップ		○小田原市民文化祭オープニング	
			
		○小田原市民文化祭	
			

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	平成26年度
項目		現在の状況	
文化財の指定		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	重点区域内には、国指定史跡である史跡小田原城跡をはじめとする多くの指定文化財が存在している。本市の歴史的風致の維持向上のために、重点区域に集中的に存在する文化財の保存・活用を図ることが必要であり、関連法令に基づく保護措置を図るとともに、計画的な修理や整備を推進する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
「史跡小田原城跡」として、「八幡山古郭西曲輪ほか」、「総構香林寺山西」の2箇所を史跡に追加指定すべく、関係地権者、国、県等との協議のうえ、意見具申書を国に提出し、文化審議会等での議論を経て、官報告示により、平成26年10月6日付で追加指定されることとなった。このことにより、指定面積が38,261.13㎡増加し、史跡小田原城跡の総面積が294,237.73㎡となった。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			

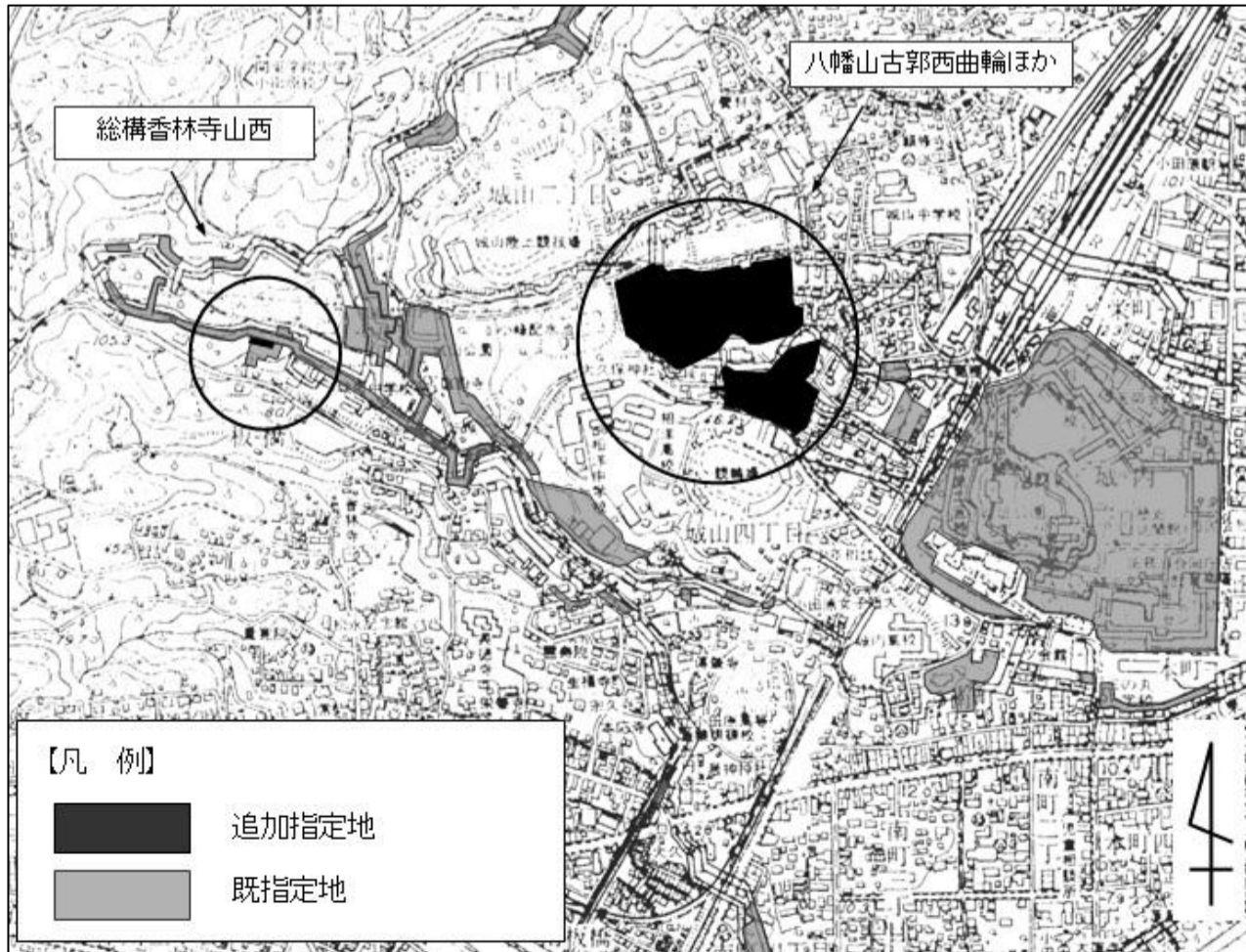
状況を示す写真や資料等



八幡山古郭西曲輪ほか



総構香林寺山西



位置図

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	平成26年度
項目		現在の状況	
文化財の修理(整備を含む)及び防災		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 文化財の修理及び整備にあたっては、文化財の価値を損なうことなく適切な保存を図る必要があるため、詳細な調査を行い、履歴に基づいた修理及び整備を実施する。
 日常から文化財の防災に対する意識を向上させるため、所有者・管理者・地域住民・消防が一体となった防災訓練を定期的実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

登録有形文化財である清閑亭を、平成23年度に策定した改修計画に基づき、建物(西棟)の構造補強や壁改修などの改修を行った。(P. 3参照)
 史跡小田原城跡御用米曲輪において、発掘調査を進めた。(P. 6参照)
 また、1月26日の「文化財防火デー」の近辺で、市内の文化財に係る避難誘導・消火活動などの消防訓練、消防による設備点検や防火指導を実施するとともに、広報誌等で文化財防火についての啓発を呼びかける。平成26年度は、平成27年1月20日に県指定文化財「小田原城天守模型」等を保存・公開している小田原城天守閣の消防訓練を行うとともに、1月20日から21日にかけて9か所の文化財所有者を消防・文化財課が訪問し、設備点検・防火指導を実施した。
 消防訓練や防火指導、啓発記事の掲載などにより、文化財所有者・管理者・市民に対し、文化財愛護に関する意識の普及・文化財防火・防災意識の高揚が図られた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

<修理(整備を含む)>



清閑亭



御用米曲輪

<防災>



消防訓練
 (平成27年1月20日 小田原城天守閣)



設備点検・防火指導
 (平成27年1月21日)

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成26年度 現在の状況
文化財の保存・活用の普及及び啓発		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 文化財を積極的に公開することにより、誰もが気軽に歴史的風致に触れることができる環境づくりを推進する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

「文化財公開事業」として、埋蔵文化財の出土品展や遺跡調査発表会、遺跡見学会、また、文化財建造物や指定文化財の公開などの事業を開催した。さらに、史跡小田原城跡(御用米曲輪)の発掘調査における発見について、市民向けの見学説明会も開催した。
 次世代を担う子どもたちにも興味・関心を持ってもらうため、文化財公開事業について、校長会で取り上げてもらうとともに、併せてチラシ等の配布も行い、小中学校への情報提供と子どもたちへの学習機会を提供した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



文化財建造物春の見学会(静山荘)
 (平成26年5月22日～23日)
 参加者数46名



小田原城跡御用米曲輪現地説明会
 (平成26年11月8日)
 参加者数837名



文化財建造物秋の観覧会(老樺荘・葉雨庵)
 (平成26年11月23日)
 来場者数737名



最新出土品展
 (平成26年11月14日～30日)
 来場者数828名



遺跡調査発表会
 (平成26年11月30日)
 来場者数166名

評価軸⑤-1 効果・影響等に関する報道

Table with 3 columns: 報道等タイトル, 年月日, 掲載紙等. Rows include '街かど博物館」19館に 小田原 だるま料理店が加わる', '小田原城址遺構「国史跡に」答申', '国指定史跡小田原城跡 新たに2カ所追加', '天守に「デジタル掛軸」出現 小田原城址公園で「夏まつり」, '来年は没後30年 今も読まれる川崎長太郎', '文化財建造物の観覧会 岩瀬家や静山荘 23日開催'.

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

八幡山古郭・総構整備事業(P.7)、小田原文学館整備活用事業(P.9)、祭礼等保存継承事業(P.12)、歴史的風致形成建造物等活用事業(P.13)、街かど博物館活用事業(P.15)に関連する事項について、適宜報道された。イベント等の開催時には、行政側から積極的な情報提供をすることで取材があり、開催内容など報道されることでイベント内容への関心を高めることが出来た。

小田原市が各種メディア(映画・テレビ・CMなど)に取り上げられた件数。※()内は依頼・相談のあった件数。H23:100件(233件)、H24:74件(155件)、H25:70件(144件)、H26:85件(168件)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
■計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



○平成26年6月21日付 読売新聞



○平成26年6月21日付 神奈川新聞



○平成26年6月5日付 神奈川新聞



○平成26年11月3日付 神静民報



○平成26年11月18日付 神静民報



○平成26年7月28日付 東京新聞

評価対象年度 平成26年度

項目

小田原地下街再生事業における歴史的風致維持向上に関する事項(伝統工芸、水産加工業など)

計画に記載している内容 記載なし

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

平成26年11月1日にオープンした小田原地下街「HaRuNe小田原」は、地域の農産物や水産加工品、木製品、それらを活かした惣菜や和洋菓子を提供するとともに、街なかや地場産業などの情報発信や小田原の歴史や文化を体験できるまち歩きツアーなど、地域経済の振興と中心市街地活性化の拠点として整備された。
館内の案内板や柱、壁などには伝統工芸である寄木細工の意匠を取り入れているほか、ベンチやテーブルなどには小田原産の木材を使用し、小田原らしい魅力を感じられるものとした。ギャラリーやイベント広場では、小田原の歴史や文化、産業などの地域の資源を魅せる展示や、地場の農産物や水産物の即売会や木製品や寄木細工などの伝統工芸品の製作体験など、地域の魅力を体感できるものとした。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



ハルネ小田原ロゴデザイン
小田原の魅力を吸い上げ、発信し、市内や街なかに人があふれ、回遊し、地域が活性化する、「張る根」の意。公募により決定。



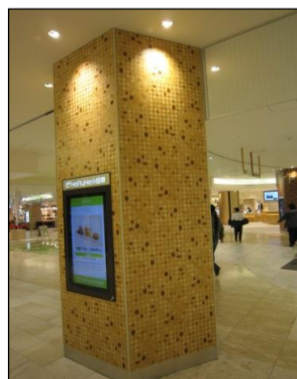
街かど案内所



ハルネ広場(イベント広場)



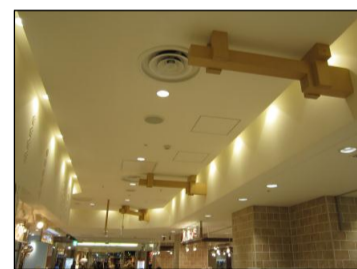
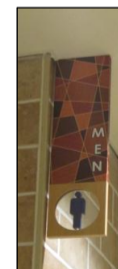
ハルネギャラリー(展示スペース)



中央の2つの柱を、伝統工芸の意匠を取り入れたものを配置



案内板、掲示板、トイレ標識、天井意匠などへ、伝統工芸を取り入れた



TAKUMI館(木製食器、木製雑貨)



小田原かまぼこ本陣(かまぼこ、おでん)



北条楽市(小田原みやげ)

評価対象年度 平成26年度

項目

観光地ビジネス創出の総合支援事業

計画に記載している内容

市民や観光客の歴史的風致に対する理解と関心を高めるための市民の活動等を推進・支援する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

国の「観光地ビジネス創出の総合支援事業」において、市観光協会、観光関連団体及び市が連携し、「なりわい」と「邸園文化」を活かしたまちあるき観光モニターツアーを実施した。

6月14日 まち歩き観光モニターツアー 26名参加

10月8日 観光地ビジネス課題研修会

10月22日 観光地ビジネス課題研修会(観光協会会員対象)

11月8日 まち歩き観光モニターツアー 12名参加

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

運営主体の体制づくりが課題である

状況を示す写真や資料等

まちあるき観光モニターツアー



まちあるき観光イメージキャラクター「梅丸」



まちあるき観光ワークショップ(11月8日) 12名参加

項目

小田原木材の活用

計画に記載している内容 記載なし

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

・「木づかいのまち」をコンセプトに小田原の地域産木材利用の拡大を試みており、小田原産木材住宅リフォーム助成事業(床材リフォームへの助成、上限15万、H26:9件)を開始した。
 ・前年度までには、市キャンプ場バンガロー、市役所総合窓口、市内学校下駄箱の製作などを行い、地場産業活性化の観点から、小田原産の木材の活用について検討が進められ、木伐採から利活用まで幅広く活用が進められた。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画の進捗に影響あり
 計画の進捗に影響なし

小田原産木材の需要に対応した供給体制、木材のストック方法等に課題がある

状況を示す写真や資料等



小田原市いこいの森バンガロー



小田原産リフォーム材(フローリング)



小田原産木材を使用した市役所総合案内カウンター



こゆるぎひろば

評価軸⑥-4
その他

評価対象年度 平成26年度

項目

職人育成研修の実施(検討調査)

計画に記載している内容 文化財の修理及び整備は、文化財の価値を損なうことなく適切な保存を図るため詳細な調査を行い、履歴に基づいた修理及び整備を実施する。
歴史的建造物の建築様式など、その特徴を顕著に示す意匠や装置の記録・保存・管理を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

(仮称)「小田原職人学校」の設立に向けて4月に組織した「小田原職人学校設立推進協議会」(事務局:市)で国土交通省所管歴史的風致維持向上等推進調査(テーマ:「実用的技術の教育訓練となる建築技術職人育成研修の実施方策及び持続的な運営方策の検討」)を受託し、地域における技術継承や職人の存在形態等に合致した研修の実施、及びこれによる実質的な歴史的建造物の改修を進めるための仕組みづくり等に向けた検討調査を行った。具体的には、職人・関係団体等から研修提案を公募し、協議会で内容の精査、適切な教材物件のマッチングを行うとともに一定の経費等を負担して研修を実施する公募型研修を試行的に実施、その有効性や課題等を検証・整理し、効果的な職人育成研修の実施方策やその持続的な運営方策について検討した。

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

□計画の進捗に影響あり
■計画の進捗に影響なし

調査結果を踏まえ、具体的な取り組みを進める必要がある。

状況を示す写真や資料等

ステップ① a 研修教材となりえる歴史的建造物の把握のための悉皆調査

【対象地域】

「小田原市中心市街地活性化基本計画」に規定する「中心市街地」(約170ヘクタール)

【調査対象物件】

昭和25年(建築基準法の適用以前)に建築された建造物で、職人育成研修の教材としてふさわしいと認められるもの。

【調査物件】

・1次調査・・・115件(マッピング)

所在の確認

・2次調査・・・29件(個別調書の作成)

所在を確認した物件のうち、研修教材にふさわしいと認められる物件について、建築年代、要修理箇所を調査、また研修教材としての活用可否について所有者の意向を確認。



市川邸(早川)
昭和2年建築



ストウ商店(栄町)
昭和2~3年建築

ステップ① b 研修提案の公募、採択、研修企画の立案

【提案を公募した研修の形態】

OJT型及び受講者公募型

【応募期間・方法】

8月9日～9月30日

所定の応募様式による

【応募提案数】

9団体12件

職種:大工・造園・畳・左官・建具・設計

形態:OJT型8件・受講者公募型4件

【提案採択団体】

おだわら工匠会(大工)

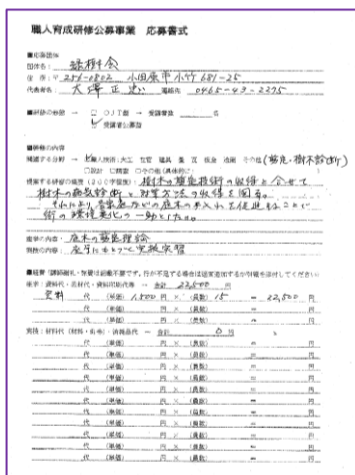
小田原庭園業組合(造園)

緑樹会(造園)

県畳工業協同組合小田原支部(畳)

県立小田原城北工業高等学校(大工)

県都市整備課(設計)



提案書(緑樹会)

ステップ② 公募型研修の実践

【実施内容】(実施順)

・9/7~11/8(実技)

移動・組立て式茶室の新築(おだわら工匠会)

・10/19(実技)

日本庭園の樹木調査(緑樹会)

教材:岡田邸庭園

・10/19(実技)・11/8(座学)

手縫いによる畳の作成(畳工業共同組合小田原支部)

教材:おだわら工匠会が研修で製作した茶室

・11/23(座学・実技)

日本庭園における樹木剪定(小田原庭園業組合)

教材:岡田邸庭園

・11/21(座学)・11/28(実技)

町屋の外壁の修復(県立小田原城北工業高等学校)

教材:瀬戸タバコ店

・1/12(実技)

ヘリテージマネージャー活動の実践(県都市整備課)

教材:瀬戸タバコ店

*各研修とも一般に公開

ステップ③ 研修の効果的な実施方策・持続的な運営方策の検討

【主要内容】

・研修による歴史的建造物の調査・改修等を推進する上での要件や課題
関係法令・規制等への対応/所有者負担のあり方 など

・職人育成研修組織の運営体制の整備

人材の確保/財源の確保 など

・職人育成研修の推進における官民連携のあり方

行政による財政支援のあり方/法制面の整備における連携/まち計画における位置づけ



研修風景:左上/工匠会, 右上/県畳工業協同組合, 左下/小田原庭園業組合(座学), 右下/県立小田原城北工業高校(実技)

項目

歴史的風致に関する意識啓発

計画に記載している内容
行政内部において関係部局が協調して取り組むこととし、都市整備・景観・文化財・観光等の分野が横断的かつ効果的な取り組みを行う。
事業実施においては、事業担当課が関係団体や個人と連携し、国や県など協議しながら実施するものとする。市民や観光客の歴史的風致に対する理解と関心を高めるための市民の活動等を推進・支援する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

昨年に引き続き、歴史的風致に関する意識啓発のための取り組みを、職員向け及び市民向けに分けて実施した。
・新採用職員向け「まち歩き研修」を実施した。(29名受講、2コースに分かれまち歩き体験)
・担当職員向け「講習会」を実施した。(45名受講)
・全職員を対象に「歴まち通信」(第2号～)を発刊した。
・市広報11月1日号より、6つの歴史的風致を「わがまちの歴史資源」と題したコラム形式(全6回)で紹介した。
・小田原ケーブルテレビにて、「小田原市の歴史まちづくり」を紹介した。(11/3～11/9放送)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

□計画の進捗に影響あり
■計画の進捗に影響なし

新採用職員向け「歴史まちづくり研修」の実施については、今後、新採用職員研修の「小田原を知る」プログラムとして組み込めるよう検討する。
また、市民向けの啓発を進めていくため、小中学校など教育面での取り組みを考慮していく必要がある。

状況を示す写真や資料等

○歴史まちづくり研修(まち歩き研修) (平成26年6月26日実施 新採用職員を対象 29名受講)



【講義】まち歩きの魅力と歴史まちづくり
講師: 丁野朗氏(日本観光振興協会常務理事)



【実地】なりわいコース体験
案内: 平井丈夫氏(NPO法人小田原まちづくり応援団理事長)



【実地】邸園コース体験
案内: 内藤英治氏(NPO法人小田原まちづくり応援団常務理事)

○歴史まちづくり研修(講習会) (平成26年7月7日実施 担当職員を対象 45名受講)



【講義】歴史まちづくりの意義～歴史的建造物の保存と活用～
講師: 後藤治氏(工学院大学建築学部建築デザイン学科教授、小田原市歴史まちづくり協議会会長)

○歴まち通信の発刊 (全職員を対象)



第2号 (平成26年4月)

○広報小田原平成26年11月1日号～平成27年4月1日号



連載コラム: わがまちの歴史資源(6つの歴史的風致をイラスト付きでわかりやすく紹介)

○小田原ケーブルテレビ内「広報小田原」平成26年11月3日～9日放送



整備活用をすすめている清閑亭にて撮影し、あわせて紙面11月1日号から始まった右記コラム連載も連動して紹介

評価対象年度 平成26年度

項目

関東圏歴史まちづくりサミットへの参加(共催)

計画に記載している内容 事業実施においては、事業担当課が関係団体や個人と連携し、国や県など協議しながら実施するものとする。市民や観光客の歴史的風致に対する理解と関心を高めるための市民の活動等を推進・支援する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

平成26年10月15日(水)に群馬県甘楽町にて、国土交通省関東地方整備局及び群馬県甘楽町主催、ほか関東認定都市共催として、関東圏認定9都市が一堂に介した、「関東圏歴史まちづくりサミット」がこの地域で初めて開催された。

【関東圏認定都市】 長野県下諏訪町、茨城県桜川市、茨城県水戸市、群馬県甘楽町、長野県松本市、神奈川県小田原市、埼玉県川越市、長野県東御市、長野県長野市

各首長からの事例紹介や共同宣言が行われ、今後の歴史まちづくりの推進に伴い、認定都市同士の連携協力について確認した。

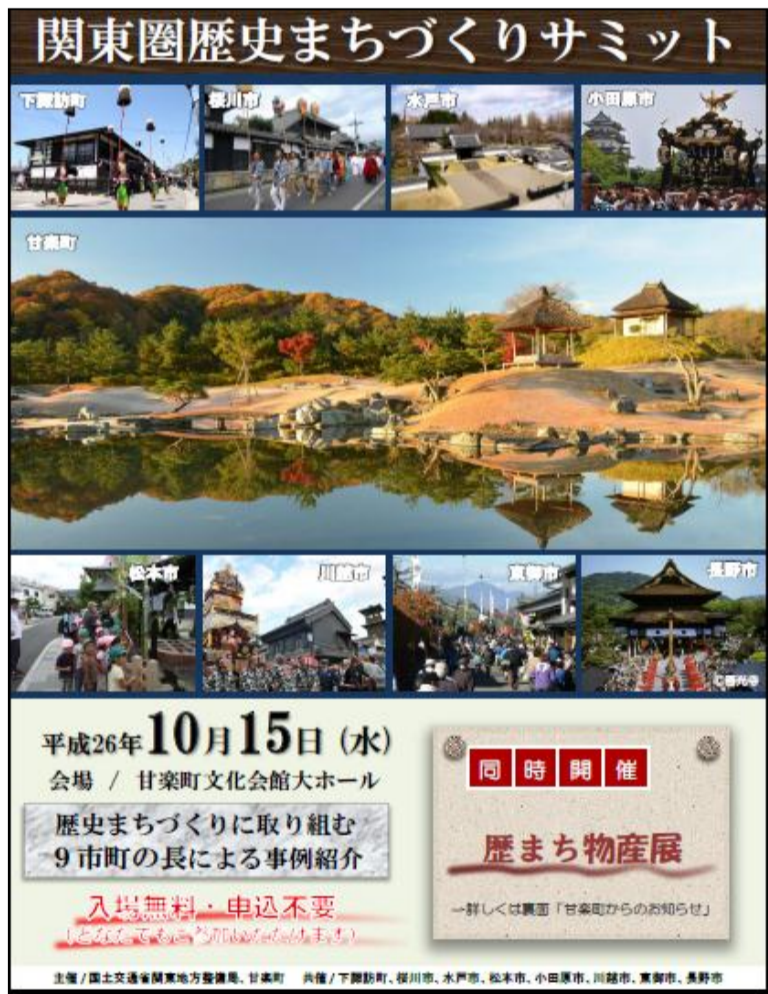
あわせて当日会場前にて、各都市による「歴まち物産展」が開催され、小田原市としても、蒲鉾や木工製品などの歴史的風致に関する特産品を販売し、PRした。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



開催案内(チラシ)



会場前にて開催された歴まち物産展への出店(蒲鉾、木工品、梅ジュースなど)



小田原市長からの事例発表①



小田原市長からの事例発表②



関東圏認定9都市による共同宣言

評価対象年度	平成23 年度～ 26 年度
計画に記載している方針	<p>(1) 歴史的風致の核となる建造物の保存・活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定・登録文化財の建造物や未指定の建造物は歴史的風致形成建造物の指定を行う等の保護措置を講じ、積極的な活用を推進する。 ・把握していない歴史的建造物をはじめとする文化財等の総合的な調査を実施し、価値付けその他の必要な保存・管理、活用方策を検討、市民や観光客への広報を図る。
計画に記載している課題	<p>(1) 歴史的風致の核となる建造物に関する課題</p> <p>多くの歴史的価値の高い建造物が失われてきた本市では、災害の難を逃れてきた建造物や災害後に再建された建造物についても、所有者の高齢化や後継者不足、維持管理費の負担が大きいことなどから、滅失や損傷が進んでいる状況にある。</p> <p>民間が所有する建造物について、市内にどの程度の建造物が残され、またその建造物がどのような状況におかれているかなどの全体像が把握できていない。</p> <p>このため、歴史的建造物の滅失や損傷を防ぐ手立て、効果的に活用していく方策が十分に講じられておらず、市民や観光客への認知度も低い。</p>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>①-1 計画実施に向けた推進体制の強化</p> <p>庁内推進会議を中心に各歴史的建造物の整備事業所管課同士の連携を図った。歴史建造物担当課長を新規に配置した。</p> <p>③-1 清閑亭保存整備活用事業</p> <p>清閑亭の整備(雨樋、蔵、正門、東門、雨水排水管、女性用便所、塀、物干台、電気、空調、東棟構造補強)をした。活用においては、民間団体の自由な発想を活かし、施設に関連したイベントやまち歩きを通年で実施した。</p> <p>③-2 松永記念館整備活用事業</p> <p>老樗荘(外壁、土塀、入口、竹垣など)、葉雨庵(通路、浸透排水)、本館(外壁、バルコニーなど)、収蔵庫(空調設備など)、庭園樹木の樹勢回復などの整備をした。</p> <p>③-3 歴史的風致形成建造物等整備事業</p> <p>民間所有の歴史的風致形成建造物候補の所有者への意向確認を行うとともに、歴史的風致形成建造物補助金交付要綱を制定した。</p> <p>③-4 史跡小田原跡本丸・二の丸整備事業</p> <p>御用米曲輪の発掘調査にて、全国的にも例の無い構造を持つ中世の池や庭園等の遺構を発見した。</p> <p>③-5 八幡山古郭・総構整備事業</p> <p>H23三の丸外郭新堀土塁に説明板・柵の設置した。H25～26小田原高校に整備した散策路の開放をし管理した。</p> <p>③-7 小田原文学館整備活用事業</p> <p>H25 本館・別館の建物調査、別館の敷地及び建物の購入、庭園整備を行った。H26本館・別館の構造補強のための建物調査を行った。西海子サロンを継続的に開催した。</p> <p>③-11 歴史的風致形成建造物等活用事業</p> <p>春と秋の年2回公開した。H24～25歴史的建造物リレーと題し、建物の公開とともにゆかりの人物の講話や資料展示などあわせて開催した。</p> <p>④-1 文化財の指定</p> <p>H26史跡小田原城跡2カ所が追加指定された。</p> <p>④-2 文化財の修理(整備を含む)及び防災</p> <p>小田原城御用米曲輪調査(H23外周部 1,700㎡、H24平場 3,100㎡)を実施した。消防訓練を定期的実施した。(H23松永記念館、H24小田原文学館、H25二宮尊徳生家、H26小田原城天守閣)各年9カ所の文化財所有者を訪問し設備点検・防火指導を行った。</p> <p>④-3 文化財の保存及び活用の普及・啓発</p> <p>H24～26発掘調査の成果を遺跡調査発表会(のべ参加者数481人)、最新出土品展(のべ来場者数2,262人)、遺跡見学会(のべ参加者数956人)を実施した。</p> <p>⑥-4 職人育成研修の実施(H25⑥-2も同様)</p> <p>H25歴史的風致維持向上等推進調査を国から受託し実施した。(他地域講師招致による数寄屋等建築技術の職人育成研修実施方策の実践的検討)H26任意団体が同様に歴史的風致維持向上等推進調査を国から受託し実施した。(実用的技術の教育訓練となる建築技術職人育成研修の実施方策及び持続的な運営方策の検討)</p>

<p>方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)</p>	<p>○本市所有で登録有形文化財である4建物(清閑亭、松永記念館、小田原文学館本館、別館)の活用が推進された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記4建物を先導的に歴史的風致形成建造物に指定し、整備活用を進め、活用において各施設を連携し回遊性を高めたことで来館者数が増加した。 <p>⇒清閑亭の来館者数 (H23: 15,969人、H24: 20,777人、H25: 22,324人、H26: 24,190人)</p> <p>松永記念館の来館者数 (H23: 21,901人、H24: 22,388人、H25: 22,905人、H26: 22,086人)</p> <p>小田原文学館の来館者数 (H23: 9,121人、H24: 9,578人、H25: 8,068人、H26: 8,501人)</p> <p>⇒上記3館合計の来館者数 (H23: 46,991人、H24: 52,743人、H25: 53,297人、H26: 54,777人)</p> <p>○指定した歴史的風致形成建造物の積極的な活用による周辺への波及効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的風致の核となる建造物のうち小田原城に近い清閑亭を市民や観光客の回遊拠点として、周辺も含め積極的に整備活用したことで、小田原城だけではない市内のまち歩き観光が活性化され、他の歴史的建造物(街かど博物館、歴史的風致形成建造物候補など)の活用の推進や市観光事業へも波及効果が生じた。 <p>⇒清閑亭によるイベント数 (H23: 52事業、H24: 113事業、H25: 102事業、H26: 109事業)</p> <p>⇒入込観光客数 (H23: 424万人、H24: 437万人、H25: 464万人、H26: 451万人)</p> <p>○活用を委託したNPO法人や市民からの積極的な提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用を通じ、委託したNPO法人や地元住民から歴史的街なみの保存と活用に伴う積極的な提案がなされるようになり、まち歩き先の地元住民のまちづくりへの意識も高まっている。 <p>⇒H25・26清閑亭スタディ</p> <p>⇒かまぼこ通り活性化委員会による地元祭り(かまぼこワッショイ)の自主的初開催(H26.8.9)</p> <p>○歴史的風致の核となる建造物の保存・活用をすすめることで得た新たな課題が判明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間所有の歴史的建造物の活用方法を検討するなかで、伝統工法の継承の必要性が判明し、職人育成研修組織の設立に向けた検討が開始された。 <p>⇒H24～26歴史的風致維持向上等推進調査を受託し検討(H26は市内任意団体が受託)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また本調査により、所有者と接触することで、一部の建物において除却を回避することができ、同時に実施した悉皆調査により、保存活用すべき新たな歴史的建造物も判明した。 <p>⇒内野邸、佐藤邸、岡田邸、市川邸、ストウ商店、瀬戸タバコ店 など</p>
<p>達成状況の評価、要改善事項</p>	<p>■想定通り効果が発現している</p> <p>□今後発現が予想される</p> <p>□要対策検討</p> <p>□現段階では判断できない</p> <p>(要改善事項)</p>
<p>計画見直しの必要性</p>	<p>□計画の見直しが不要</p> <p>■計画の見直しが必要</p> <p>(見直しの理由・方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歴史的風致形成建造物等整備事業」において、さらに保存・活用を進めるため、歴史的風致形成建造物の指定候補や新たな指定候補である民間所有の建造物の指定に係る計画変更が必要である。 ・今後、新たな課題として判明した伝統工法の継承については、悉皆調査や改修方法、職人育成など実施体制も含め様々な視点での検討を踏まえ、課題や事業などを計画に記載をし、本計画に位置付けたをしようえで実施していく必要がある。

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成23 年度～ 26 年度
計画に記載している方針	<p>(2) 歴史的風致の残るまちなみの環境整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧城下や旧街道筋など歴史の面影が色濃く残る地区で、道路や周辺環境も含めたまちなみの環境整備を進める。 ・歴史的景観の重要性や大切さなど市民意識の醸成や維持向上に向けた啓発を進める。 ・個々の歴史的資源をつなぐ周遊ルート上の案内板の更新、休憩スペースの整備など観光客や市民に分かりやすい環境の整備を進める。
計画に記載している課題	<p>(2) 歴史的風致の残るまちなみに関する課題</p> <p>旧東海道や旧甲州道の沿道などでは、跡地が中高層マンションや駐車場となり、周辺のまちなみと調和しない店舗や看板類の増加、電線や電柱による景観の阻害が見られ、武家居住地であった住宅地では区画が細分化されるなど歴史的な景観が失われつつある。</p> <p>総構の遺構をはじめとする歴史的資源は、全体像を把握しにくく、確認できる部分が認識しづらい。まちなみの中に残る歴史的資源も「点」であり、連続性がなく、風情や佇まいを感じにくい。</p> <p>市民や観光客が歴史的風致を感じながら休憩できる施設などが整備されておらず、各所に設置されている案内板等の統一性がなく、小田原の魅力が「面」として感じにくくなっている。</p>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>②-1 景観計画の活用 拠点型重点区域の景観届出件数 H23: 27件、H24: 24件、H25: 30件、H26: 24件 計105件</p> <p>③-6 案内板等整備事業 歴史的建造物周辺の案内板設置数 H23: 2基、H24: 2基、H25: 3基、H26: 0基 計7基</p> <p>③-8 国道255号電線地中化事業 両側歩道460mの管路及び各戸引込工事が終了し、街路灯工事が進捗中</p> <p>③-9 銀座・竹の花周辺地区における街なみ環境の向上 歴史文化やなりわいの感じられる修景件数 H23: 4件、H24: 2件、H25: 4件、H26: 2件 計12件</p> <p>③-12 地区まちづくりのための調査及び住民とのワークショップ 土蔵造り風の町屋の有料公開や各種イベントの開催等、市や地域住民組織による活用等が行われた。</p> <p>③-13 街かど博物館活用事業 街かど博物館体験ツアー開催数(参加者数) H23: 2回(49人)、H24: 3回(62人)、H25: 3回(38人)、H26: 5回(69人) 計13回(218人) 街かど博物館認定数 ※全19館となる H26 だるま料理店「のれんと味の博物館」を新規認定(1館追加)</p> <p>③-14 なりわい交流館活用事業 なりわい交流館来館者数 ※お休み処としての利用 H23: 25,807人、H24: 23,266人、H25: 23,473人、H26: 30,626人 計103,172人</p> <p>③-16 小田原散策マップ等作成事業 両面カラーによる西部版、中央版、東部版発行部数 H23: 2万部、H24: 5万部、H25: 3万部、H26: 2万部 計12万部</p> <p>③-17 レンタサイクル事業 貸出実績台数 H23: 1693台、H24: 1786台、H25: 1768台 H26: 2091台 計7338台</p> <p>⑥-2 観光地ビジネス創出の総合支援事業(H25⑥-1も同様) まち歩き観光モニターツアー参加人数 H25: 108名、H26: 38名 計146名</p> <p>⑥-5 歴史的風致に関する啓発(H25⑥-3も同様) 職員向け研修実施参加者数 H25: 41名、H26: 74名 計115名 市民向け講座実施及び広報紙等での記事掲載等</p>

方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)

○景観計画の活用による街なみ環境の整備
 ・本計画以前より策定した景観計画(景観条例、屋外広告物条例)の活用により、色彩の制限等による本重点区域内における歴史的景観の維持保全された。
 ⇒景観重点区域内の修景件数
 (H23~26 累積 121件)
 (うち景観形成修景費補助金の件数 H23~26 累積 4件)

○自主的協議会との協働による銀座・竹の花周辺地区街なみ環境整備
 ・旧甲州道沿いの歴史文化やなりわいの感じられる修景により良好な景観形成が図られた。
 ⇒協議会区域内における修景件数
 (H23:4件、H24:2件、H25:4件、H26:2件 計12件)
 ・歴史的風致形成建造物指定候補の外構改修から波及し、その歴史的風致を阻害しないよう、近接施設が修景事業を実施し相乗効果をもたらした。
 ⇒



・電線類地中化に伴う、街路樹や街路灯のデザイン等について、自主的協議会にて協議を重ね、歴史文化やなりわいの感じられる街なみの整備へと繋がった。

○市職員及び市民向けの啓発による意識向上
 ・市職員向けの研修や庁内通信、市民向けの広報など積極的に展開したことで、歴史まちづくりによる歴史的景観の重要性や大切さを認識することができた。
 ・歴史的風致については、市の大きな公共事業の中でも組み込むこと(小田原地下街再生事業等)で、市民へのPR効果も期待されるものである。
 ⇒研修実施後アンケート
 (歴史的風致維持向上への関心が高まった・・・受講者延べ115名のうち7割)

○まち歩き観光の推進
 ・整備活用された歴史的風致形成建造物や、設置した邸園案内板を中心としてまち歩き観光ルートを設定し、モニターツアーなど実施したことで、観光振興に繋がった。
 ⇒入込観光客数(H23:424万人、H24:437万人、H25:464万人、H26:451万人)
 ⇒モニターツアーの実施による満足度(H25:73.3%)

達成状況の評価、要改善事項

■想定通り効果が発現している
 今後発現が予想される
 要対策検討
 現段階では判断できない
 (要改善事項)

計画見直しの必要性

■計画の見直しが不要
 計画の見直しが必要
 (見直しの理由・方針)

総括評価シート【方針の達成状況等】

(様式2-1)

評価対象年度	平成23 年度～ 26 年度
計画に記載している方針	<p>(3)歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け継がれてきた祭礼や芸能、地場産業などが織りなす良好な風情を確実に継承するため、これらの活動の普及と啓発に努める。 ・担い手となる後継者の育成、地域コミュニティの維持など歴史的・文化的な活動の土台となる環境整備を進める。
計画に記載している課題	<p>(3)伝統的な産業や文化芸能に関する課題</p> <p>神輿渡御や板橋地蔵尊大祭などの伝統行事や小田原囃子や大漁木遣唄、相模人形芝居下中座などの伝統芸能が地域に今も息づいている。</p> <p>このような伝統行事や芸能については、担い手が減少しているだけでなく、マンション等の建設増加による人口増加等に伴い、地域コミュニティの希薄化などによって、保存・継承に大きな課題がある。</p> <p>さらに、本市を代表する特産品である小田原漆器をはじめとする伝統産業についても技術を受け継ぐ担い手が全体的に不足するなど、その維持と次世代への継承に大きな課題がある。</p>
対応する進捗評価項目とその推移	<p>③-10 祭礼等保存継承事業</p> <p>小田原ちようちん夏まつりを実施し、あわせて自治会みこしパレードを実施した。H26同まつりと合せ小田原城をデジタル掛け軸で映し出す「あかりの響宴」を実施し、祭りのPRに寄与した。</p> <p>③-13 街かど博物館活用事業</p> <p>街かど博物館体験ツアー開催数と参加者数</p> <p>H23:2回(49人)、H24:3回(62人)、H25:3回(38人)、H26:5回(69人) 計:13回(218人)</p> <p>街かど博物館認定数 ※全19館となる</p> <p>H26 だるま料理店「のれんと味の博物館」を新規認定(1館追加)</p> <p>③-14 なりわい交流館活用事業</p> <p>伝統工芸品展開催数及び来場者数 ※地場産業の情報発信としての利用</p> <p>H23:2回(792人)、H24:2回(788人)、H25:2回(645人)、H26:2回(324人) 計8回(2549人)</p> <p>利用団体数 ※生涯学習等の各種イベント会場としての機能</p> <p>H23:87団体、H24:90団体、H25:93団体、H26:118団体 計388団体</p> <p>③-15 伝統工芸品産業産地組合助成事業</p> <p>組合の行う振興事業(従事者・後継者育成事業、販路開拓事業等)に対し助成を行った。</p> <p>③-18 民俗芸能保存支援事業</p> <p>後継者育成発表会参加団体及び参加者数</p> <p>H23:7団体(432人)、H24:7団体(396人)、H25:10団体(525人)、H26:8団体(529人)</p> <p>③-19 無形民俗文化財記録作成事業</p> <p>市内の無形文化財(相模人形芝居下中座、白髭神社の奉射祭)について、実際に取材し資料収集を行った。</p> <p>③-20 伝統行事・伝統文化啓発事業</p> <p>市民文化祭における伝統文化発表会の開催</p> <p>伝統文化のワークショップの参加者数</p> <p>H26 日舞 16人、長唄 17人</p> <p>伝統文化のアウトリーチ事業の派遣小学校数</p> <p>H26 長唄・三味線 3校</p> <p>⑥-4 職人育成研修の実施(H25⑥-2も同様)</p> <p>H25歴史的風致維持向上等推進調査を国から受託し実施した。(他地域講師招致による数寄屋等建築技術の職人育成研修実施方策の実践的検討)H26任意団体が同様に歴史的風致維持向上等推進調査を国から受託し実施した。(実用的技術の教育訓練となる建築技術職人育成研修の実実施方策及び持続的な運営方策の検討)</p>

方針の達成状況・課題の改善状況に関する評価内容(可能な限り定量的な評価を交えて自由記述)

○祭礼等とイベントの同時開催による相乗効果

・ちょうちん祭りにより自治会神輿パレード(H24～)や天守閣あかりの饗宴(H26)の開催により祭礼の参加者数増加した。
⇒小田原ちょうちん夏まつりの参加者数
(H23:65,000人、H24:90,000人、H25:95,000人、H26:130,000人)



ちょうちん夏まつり



H26あかりの饗宴

○地場産業を営む店舗等のPR効果

・古くから栄えた地場産業を営む店舗を一般公開する「街かど博物館」への関心が高まり、伝統文化への意識高揚に寄与した。
⇒街かど博物館ファンクラブ会員数
(H23:331人、H24:386人、H25:419人、H26:434人)
⇒街かど博物館体験ツアー実施後アンケート
(次回も参加したい・・・参加者のうち8割)

○伝統工芸に携わる若手職人の確保

・なりわい交流館による工芸展や従事者・後継者育成事業、販路開拓事業等により、木製品業界における若手の活動も活発化しており、あわせて年長者も活動を支援するなど産業継承に役立っている。
⇒なりわい交流館来館者数
(H23:25,807人、H24:23,266人、H25:23,473人、H26:30,626人 計103,172人)

○民俗芸能の着実な継承

・小田原民俗芸能保存協会の主催する後継者育成発表会を継続的に支援することで、古くから伝わる民俗芸能の発展と啓発に役立った。
・特に、H25開催の40周年記念大会では、例年参加している加盟団体(8団体)に加え、市外から2団体を招待し、例年より盛大なものとなった。



H25
40周年
記念大会

○職人育成研修の実施による伝統工法等職人技術の継承

・職人育成組織の検討に際し、職人研修講座(公募型など)を分野別に実施し伝統工法等による職人技術継承に繋がり始めた。
町屋の外壁修復(大工組合と高校生による実践的体験型研修)など

○木づかい(気遣い)のまちとしての地場産木材の積極的活用

・地場産業活性化から、小田原産の木材の活用について検討が進められ、木伐採から利活用まで幅広く活用が進められた。
市キャンプ場バンガロー、市役所総合窓口、市内学校下駄箱の製作など

達成状況の評価、要改善事項

- 想定通り効果が発現している
- 今後発現が予想される
- 要対策検討
- 現段階では判断できない

(要改善事項)

計画見直しの必要性

- 計画の見直しが不要
- 計画の見直しが必要
(見直しの理由・方針)

評価対象年度 平成23 年度～ 26 年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み①: 史跡とその周辺の整備

史跡小田原城跡本丸・二の丸整備事業、八幡山古郭・総構整備事業

(取り組み概要)

小田原市の歴史・文化・伝統を継承するシンボルである史跡小田原城跡及びその周辺の整備を進めることで、歴史的な景観を保全し、市街地の魅力の向上とともに歴史的風致の維持向上に寄与する取り組みである。

「史跡小田原城跡本丸・二の丸整備事業」については、「史跡小田原城跡本丸・二の丸整備基本構想」に基づき小田原城本丸・二の丸の史跡整備や回遊ルート整備を進め、市街地の歴史的環境の改善や本市固有の歴史的な景観の保全を進めている。

平成22年度に整備実施設計を策定した御用米曲輪について、平成24年度に引き続き、戦国時代の遺跡の広がりの確認を主な目的として発掘調査を進めており、全国的にも例の無い構造を持つ「池」や「庭園」等を発見した。今後、その発掘調査結果をもとに、具体的な整備に着手していく。

また、平成24年度には、城址公園境界隣接の民有地における塀(L=100m、H=2.0m)の改修(板塀の設置)の一部の経費を補助することで、史跡周辺において歴史的に極めて良好な景観形成を図った。

「八幡山古郭・総構整備事業」については、戦国時代の文化遺産である史跡小田原城跡の八幡山古郭及び総構の整備を順次行っている。平成25年度には、神奈川県教育委員会が県立小田原高等学校に整備した、散策路等の開放を行い、現在、管理を行っている。

今後は、平成22年度に策定した「史跡小田原城跡八幡山古郭・総構保存管理計画」に基づき、全体の整備計画を策定していく必要がある。また、将来的には適地に、史跡小田原城跡を説明するためのガイダンス施設の整備をしていく。



御用米曲輪にて発掘された



隣地板塀 (施工前)



隣地板塀 (施工後)



八幡山古郭の散策路 (ポケットパーク)

(自己評価)

「史跡小田原城跡本丸・二の丸整備事業」については、着実に整備が進んでいる状況である。常盤木門、銅門、馬出門、馬屋曲輪と大手筋と呼ばれる主要登城ルートを順次、整備し、現在は、御用米曲輪の整備に着手しているところであるが、ここから唯一無二の戦国期の庭園・池の遺構が発掘されたことから、これらを含めて、いかに効果的に復元的整備を進めていくか、有識者や関係機関等と調整しながら検討している。

また、周辺の整備として行った板塀の設置については、史跡小田原城跡との隣接境界部での事業であり、景観上の配慮が強く求められたが、市内産の間伐材を使用した木塀の整備や、行燈調の街燈(補助対象外)の設置など、事業者の協力を得て、歴史的な環境に配慮した空間形成が進められた。

「八幡山古郭・総構整備事業」については、着手できるところから整備等を進めており、現在、まだ具体的整備計画が策定されていないが、先行する形で、新堀土塁、東曲輪、八幡山古郭回遊路等の整備・管理を実施している。平成26年度には、県立小田原高等学校敷地を八幡山古郭として史跡指定した。今後は、さらに重要な場所の史跡指定と公有地化を進めるとともに、整備計画を策定し、順次、整備を進めていく。



天守閣と銅門



馬出門と銅門

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等):窪田 亜矢(東京大学大学院工学系研究科特任教授)

・外部評価実施日:平成26年12月22日

・有識者コメント

御用米曲輪の池や庭園については、馬出門あたりからの関係からその意義が理解できる。戦国期の庭や庭園という、日本の中でも貴重なものを、近世としての保存を進めようとする環境の中で、文脈を読み取ることのできる整備をしていただければと思う。

さらに周辺の現代の環境との併存が重要となるが、両者をつなぐアクセスが、物理的な意味でも、情報としての意味でも工夫すべき箇所といえる。

例えば、文化財における「本物性」を活かすとするならば、偽木を使わずに本物の素材をインフラやストリートファニチャーには使うということを徹底的なルールにできないか。当然、そのメンテナンスも必要となるが、そうしたこともふまえて、未来に向けた歴史的風致維持向上を計画していただきたいと思う。

(今後の対応方針)

発掘された御用米曲輪の整備については、中世の時代を感じることのできる整備を進めるとともに、歴史まちづくりの観点から、文化財保護的な視点だけでなく、景観的、観光的視点を踏まえながら整備するよう工夫する。

また、史跡内及び周辺的环境整備については、ベンチなども含め、自然素材を生かして整備ができるよう、策定してある景観計画(景観形成の方針など)に沿ったものとなるよう調整していきたい。

評価対象年度 平成23 年度～ 26 年度

・歴史的風致維持向上施設の整備・管理

代表的な取り組み②: 回遊拠点施設の整備

清閑亭保存整備活用事業

(取り組み概要)

国登録有形文化財である「清閑亭」は、建物の老朽化が著しいため、その改修を行い、小田原の歴史・文化の発信拠点、また小田原城跡を中心とした中心市街地の回遊拠点、観光客らの交流拠点として整備し活用する取組みである。

建物の整備事業としては、平成23年度に現況調査と改修補強計画の作成等を行い、平成24年度には改修計画の成果に基づき耐震診断や構造補強の実施設計を行った。その上で、平成25年度に、雨樋・葺・正門・東門・雨水配管・女性用便所改修工事、葺の電気・空調設備工事、竹垣等設置工事を実施し、平成26年度には建物(主に東棟)の構造補強や一部壁改修、また、付随する箇所の空調設備等の改修を実施した。なお、建物の改修工事にあたっては、基本的に建物等を閉鎖しながら段階的に改修工事を実施し、常時活用できるよう工夫をした。

周辺の整備事業として、近接する小田原城跡からの散策路を整備することにより、回遊性を高めるため、平成25年度には小田原城周辺の散策路整備を実施した。

活用事業としては、市内のNPO法人に運営を委託し、年間を通じて、喫茶の提供やイベントの開催を実施している。また、回遊性を高めるため、近隣の小田原文学館や松永記念館などの歴史的建造物、またまちかど博物館などと連携し、ポスター、情報誌の発行や共通イベントの開催、各施設を組み入れたまち歩き等を実施した。



樋の改修 門の修理 塀(竹垣・建仁寺垣) 物干台(建仁寺垣) 周辺散策路



まち歩きツアー(古稀庵) 講演会 いびき会 クラシックコンサート 建物内ガイド

(自己評価)

建物の整備事業においては、現況調査及び改修計画の策定により、必要な改修箇所や今後の活用のあり方を示し、耐震診断や構造補強の実施設計により、耐震性能が把握でき、補強方法の方向性等を示すことができた。このことにより、建物本体の雨樋や東棟の構造補強等の建物保存工事、女性用便所改修、葺の改修などの利便性向上する工事、門や塀(竹垣)、物干台などの庭園に附属する修景工事をする事で、快適で良質な活用事業へ繋げることができ、清閑亭の来館者やイベント参加者は年々増加している。

但し、周辺の整備事業である小田原城跡から清閑亭を結ぶ散策路整備については、関係者との調整に時間を要している状況にある。

活用事業として、歴史、文化、なりわいに関するイベントや物産関係や芸術家の展示会、食に関するイベント、喫茶の提供、まち歩きツアーの実施など、様々な活動を行うことにより、清閑亭の認知度も高くなり、また地域経済にもたらす効果も大きくなっている。

※来館者数の推移 H23 15,969人 → H24 20,777人 → H25 22,324人 → H26 24,190人

※イベント数の推移 H23 52事業 → H24 113事業 → H25 102事業 → H26 109事業

この「清閑亭保存整備活用事業」は、活用を踏まえながら整備を実施したことで、保存整備(ハード事業)だけで終わらない、活用事業(ソフト事業)を幅広く展開することが出来たため、歴史的風致の核となる施設の整備活用のあり方を示し、今後、他の施設や周辺の整備事業に対しての先導的な役割を果たし、モデル事業として、各事業や市内における歴史的風致維持向上に関する活動等への波及効果を促すものであると考えている。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等):窪田 亜矢(東京大学大学院工学系研究科特任教授)

・外部評価実施日:平成26年12月22日

・有識者コメント

委託され管理しているNPOの方々の、建物や小田原のまちに対する愛情が非常に伝わって来た。こうした活動を継続するための、部分的な修理更新(開館、活用しながらの段階的な改修)という工夫がなされているということだが、非常に重要なことと思う。

また、各種のまちあるきイベントを丁寧に組み立てていることもよく分かった。それによって、リピーターを増やすということと、利用者の幅を広げるということを同時にされているという方法は、他の施設等でも見習うべきこととしていったらどうか。

周辺地域との繋がりも生み出して、素敵な刺激になっているということで、こうした民間の取り組みを今後も市がどう支援できるか、学ぶ材料、もしくはリーディングモデルとして整理して行って欲しい。

(今後の対応方針)

本事業を見本として、その整備手法や活用方法など事例として蓄積し、他の歴史的建造物の整備活用に生かしていきたい。

評価対象年度 平成23年度～ 26年度

・その他(任意)

代表的な取り組み③: 歴史的風致に関する啓発

(取り組み概要)

歴史的風致の維持向上への啓発を図ることで、歴史的風致維持向上施設の整備又は管理に関する事項に位置付けた事業をはじめ、関連する事業も含めて歴史的風致の維持向上に寄与することとなるよう、対象を市職員向け、市民向けに分けた継続的な啓発事業の取り組みである。

○主な啓発事業

平成23年度 ・新聞4紙へ認定記事掲載 ・広報特集 ・小田原ケーブルテレビにて放映 ・講演会「板橋地区と小田原三茶人」(田代道彌氏 城と緑を守る会会長)

平成24年度 ・広報(お知らせ)へ掲載(歴史的風致形成建造物の指定について)

平成25年度 ・歴史まちづくり研修の実施 <講義「小田原の守るべき歴史的風致と歴史的建造物」(平井太郎弘前大学准教授)ほか> ・歴まち通信の発行 ・広報特集(H25.11.1号) ・講座「小田原城をめぐる戦国群像」(小和田哲男氏 静岡大学名誉教授)

平成26年度 ・歴史まちづくり研修の実施 <【新任・新人職員向け】講義「まち歩きの魅力と歴史まちづくり」(丁野朗氏 日本観光振興協会常務理事・総合研究所長)> ※まち歩き体験 観光まち歩き2コースを体験 <【担当職員向け】講義「歴史まちづくりの意義(歴史的建造物の保存と活用)」(後藤治氏 工学院大学建築学部建築デザイン学科教授)> ・歴まち通信の発行 ・広報連載(H26.11～H27.4 6回連載コラム) ・小田原ケーブルテレビにて放映(H26.11.3～9)「歴史まちづくりについて」 ・雑誌「公園緑地」寄稿

○位置付けている事業及び関連する事業の一覧表作成による「見える化」

各所管事業について、庁内にて情報共有・連携が図れるよう、推進会議を通じ、事業調書・一覧表を作成した。事業の見える化を行うことで、必要に応じ各事業が参照しあえるよう工夫した。

また、特に位置付けていない事業についても、「関連する事業(又はイベント)」として情報収集し、別途一覧表を作成し共有することで、歴史的風致の維持向上へ連携して取り組む環境を整えた。



歴史まちづくり研修(H25平井講師) (H26後藤講師)

広報特集H25.11

連載コラムH26.11～H27.4

(自己評価)

平成25年度第1回歴史まちづくり協議会にて「市民並びに市職員に対する歴史的風致に関する啓発事業の必要性」についての提案があったことを踏まえ、これまで取り組んできた啓発事業に加え、平成25年度より、まず庁内にて担当職員を中心に職員研修を実施した。

特に、担当者へは、講義形式とともに実地形式のもの(まち歩き)を組み合わせることでより理解を深めやすくした。また新任・新人職員向けにも同様の研修を行い、市内出身者でない職員や市内在住職員でも知らない小田原の魅力を再発見してもらい、各自の担当業務に、小田原の歴史的風致の維持向上を生かす取組みに繋がった。あわせて、全職員に対しては、「歴まち通信」と題した庁内通信を発行し、読後アンケートをとるなど実施するなど効果的な意識啓発を図った。

市民向けには、広報誌での特集や連載コラムを掲載することで、「歴史的風致」を知ってもらい、体験してもらうよう努めた。庁内通信や広報などで周知等する際は、なるべく分かりやすい表現に努め、漢字の多い事業など分かりづらいものは「キャッチコピー」などを設定、「歴史的風致」という言葉よりもまずその「中身」が伝わるよう工夫した。

目的	事業の名前	担当する課	どのような事業か? (キャッチコピー)
歴史を創る	1 清閑亭保存整備活用事業	文化財課・文化財管理課 観光課	清閑亭(せいかんてい)、直して、部園まちあるきの中心に。
	2 松永記念館整備活用事業	生涯学習課	電力王、松永安左エ門の館と庭を直して、板橋まちあるきの中心に。
	3 歴史的風致形成建造物等整備事業	都市計画課	文化財でない歴史的建造物の指定と保存の仕組み。
	4 史跡小田原城跡本丸・二の丸整備事業	文化財課・観光課	小田原城、近世と中世のすがたに復元的整備。
歴史を継ぐ	5 八幡山古郭・総構整備事業	文化財課	小田原城の最大外郭である総構(そうがまえ)を保全。
	6 案内板等整備事業	観光課・都市計画課	歴史的建造物の案内板をきれいに。
	7 小田原文学館整備活用事業	図書館	西海子通りの文学館、建物直して庭もきれいに。
	8 国道255号景観地中化事業	観光課	美町、銀座通りの景観を地中化。

(外部評価)

・外部有識者名(役職・肩書き等):窪田 亜矢(東京大学大学院工学系研究科特任教授)

・外部評価実施日:平成26年12月22日

・有識者コメント

敢えて、その他の取り組みで市役所の、特に新人職員らへの教育的取り組みを進めていることは今後も継続していただきたい。

我々、大学の研究者も、現場で、その道のプロフェッショナルに話を伺うと、学生らの理解が本質的に変わる。

職員さんはこれまでのバックグラウンドが色々と思われるので、このまちがどのような歴史の変遷を辿って現代の街なみが形成されてきたのか、きちんと理解する、このような機会は重要だと思う。まち割りや区画など都市空間が構成してきた様々な要素の変遷まで、職員若しくは市民間で共有ができ、今後のまちづくりに活かしていけると良い。①の城跡整備におけるこれまでの経緯など職員間で共有されると良い。

また、小田原地下街で推している木工関係も、本質的な意味で、小田原の歴史的風致と繋がっているものと捉えられる。或いは資源そのものだけでなく、災害等の負の部分はどうやって乗り越えて来たのか、という視点も、歴史的風致の根幹を為すものと思う。

より広域、より長期的な理解で、小田原の歴史的風致についての研究を、このような場で進めてもらいたい。

(今後の対応方針)

職員への研修は引き続き継続し、特に新採用職員については、「小田原を知る」研修プログラムとして組み込み継続して実施できる体制を検討する。

また、市民向け広報も継続するとともに、歴史の変遷も含めた伝承を図るため、小中学校などの教育面への取組みに発展させていきたい。

評価対象年度	平成26年度
<p>・法定協議会等におけるコメント</p>	
<p>コメントが出された会議等の名称:平成26年度第2回小田原市歴史まちづくり協議会</p>	
<p>会議等の開催日時:平成27年1月22日(木)午前10時から (会場:小田原市役所6階601会議室)</p>	
<p>(コメントの概要)</p> <p>■取り組み全般に対するコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点区域内における歴史的風致維持向上と相反する民間事業について、本計画に沿うように誘導していく必要がある。 ・小田原市は、県や市関係所管間との連携体制がとれており、歴史まちづくり法を上手く活用している。 ・まちづくりの課題として、人口減少があり、今後小田原らしさを活かした集約型都市構造を目指すことが望ましい。その際は、防災の観点も重要である。 <p>■各評価シートに対するコメント</p> <p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各評価シートの記載内容は問題ない。 ・認定を受けてから現在まで、着実に進捗しているの、今後の展開(方向性など)をしっかりと見据えておく必要がある。 ・特に、計画期間は平成32年度までだが、市としてその後も継続的に実施していける組織体制や行政と民間の役割分担について、現段階から検討をしておくが良い。 <p>【進捗評価シート⑥-4 職人育成研修の実施(検討)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市有の歴史的建造物の改修工事について、発注時に職人育成、伝統工法継承の視点を加味出来ると良い。金額面だけではない、技術面での評価を確立する必要がある。 ・総括評価シートにおいては、p. 33の(1)「歴史的風致の核となる建造物の保存・活用の推進」の対応項目として記載されているが、p. 37の(3)「歴史・伝統を反映した人々の活動に対する支援」の対応項目としても、職人育成組織そのものが支援にあたると思われるので、事業化に向けての検討の際は、よく留意して欲しい。 ・県の事業であるヘリテージマネージャー制度など、職人育成組織だけでなく歴史的建造物の保存活用の推進にも関係すると良い。 <p>【総括評価シート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存メディア(テレビ、新聞、雑誌等)の歴史的な部分における「小田原市」の露出数なども、達成状況の効果として把握しておくが良い。 ・方針(1)から(3)について、現在各対応事業がそれぞれ記載されているが、今後、各事業が各方針へ有機的に結びつくような展開として欲しい。 ・現在、実施している「街かど博物館活用事業」や「清閑亭の活用における市民活動」など、3つの方針へ有機的に結びつく効果的な事業であると言える。 ・今後、新たな事業として検討している「職人学校」や「かまぼこ通り」についても、3つの方針へ影響する事業となり得る可能性が有る。 ・各事業において連携の結果が見える形として、PRや啓発に繋げる。例えば、代表的な事業の質の評価にある「史跡とその周辺の整備」の外部評価員のコメントにあるとおり、本物性を活かす取組みが史跡整備における連携の成果として見える形となるものの一つである。 ・現段階において、「想定通り効果が発現している」ということであるが、事業毎の個別の課題など共有し、その解決策などあれば県内自治体へ参考に教えて欲しい。 <p>(今後の対応方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、市関係所管をはじめ、県及び県内自治体(邸園文化基本構想、邸園文化祭など)や全国の他認定都市(関東圏歴史的まちなみ等地域資産保存・活用推進会議、関東圏歴まちサミット、歴史的景観都市協議会など)と情報共有し連携を図り、小田原市の特性に合うものについては参考としていく。 ・5年目以降の取組みに向けて、現在、計画へ位置付けている事業の実施や新たな事業の追加の際は、計画に定めた3つの方針へ複合的に関係するよう特に留意する。 ・計画の終了年度である平成32年度のその後も見据え、本計画で定めた事項(維持すべき歴史的風致、課題、方針など)が本計画終了後も、小田原市として継続的なものとなるよう実施体制等(行政と民間による役割分担を含む)について、先行類似事例(小田原市より以前に認定を受けた都市の動向や神奈川県「邸園文化基本構想」における行政から民間への流れなど)を参考のうえ、次年度以降の本計画の推進にあたる。 	